

団体紹介「最終処分場技術システム研究会」

日本技術開発(株) 樋口 壯太郎

1 創立の目的と経過

最終処分場を巡る問題は、最近ますます厳しさを増しており、その適切かつ円滑な整備のために解決すべき多くの問題を抱えている。特に、しゃ水工の信頼性に関する問題は住民の関心も高く、逆に処分場の確保を困難にする一因となっている。このため最終処分場の問題は、処分場の果たすべき保管・処理機能、環境保全のためのリスク管理、システム計画（適地選定、設計・施工、維持管理、地域還元）の観点から、総合的に検討される必要がある。

最終処分場関連技術の研究・開発は従来、大学、メーカー、建設業、コンサル等で各要素技術が個別に開発されてきたが、それぞれの立場と状況で行ってきたため、個別の研究、技術としては優れたものがある、反面、処分場全体の機能としてみた場合、必ずしも十分に補完し合っていないのが現状である。このような認識のもとで、処分場の機能に係わる技術の現状と開発動向を把握し、機能を支えるハードとしての技術とソフトとしての管理システムを有機的に結びつけた技術システムとして、処分場のトータルシステム化等、処分場の在り方、技術開発について、横断的に考える場が必要と言える。

このような背景下、平成6年4月25日、85社が結集し、「最終処分場技術システム研究会」設立総会を行い、代表に花嶋福岡大学教授、副代表に田中北海道大学教授、古市大阪府立大学助教授を選出し発会した。その後、参加会社は増加し、今年度は98社（コンサルタント20社、建設23社、しゃ水工45社、水処理メーカー9社、その他1社）で活動することとした。

2 研究組織

研究組織は次図のようであり、代表、副代表の他、顧問として、田中国立公衆衛生院部長、中杉国立環境研究所主任研究官に御願した。活動は、業界を代表する「専門部会」、研究テーマの検討、調整を行う「システム統合部会」及び「研究グループ」等により行われる。「研究グループ」はさらに16の分科会により構成される。

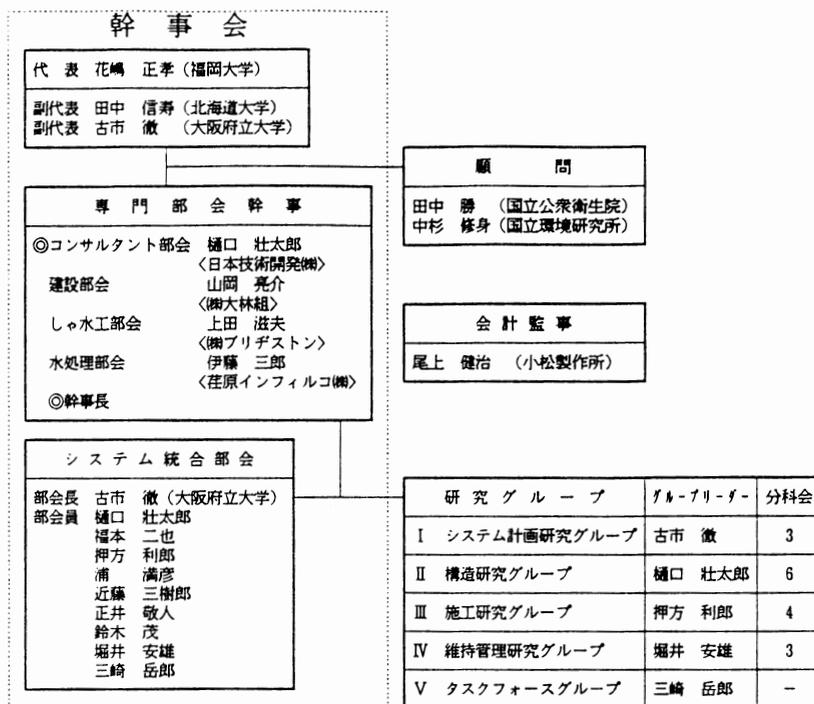


図 研究組織

3 研究のスタンス

研究の基本スタンスは次の通りである。

『最終処分場の抱える様々な課題に対応し、最終処分技術の向上に資すると判断されるものについて研究する。

研究は関連業界が横断的に参加するため、各業界各社の競争原理を保ちながら、技術の向上のため、共通認識にもとづくテーマについて研究することを基本とする。』

4 研究グループと分科会

研究グループと分科会は、次表のようである。

グループ	システム計画 研究グループ	構 造 研究グループ	施 工 技 術 研究グループ	維 持 管 理 研究グループ
分 科 会	①リスク管理 ②処分場計画論 ③情報管理	①浸出水処理システム ②しゃ水システム ③シート規格 ④シート固定工 ⑤下地性状 ⑥施設構造	①シート試験方法 ②シート施工 ③基盤整備、 法面施工 ④施設施工	①埋立管理 ②水質管理 ③施設管理
タ ス ク フ ォ ー ス				
上記に含まれないテーマについても適宜研究グループ等を形成する。 ・特殊な技術で共同開発を要望されるもの。 ・新しい発想に基づく埋立技術 ・海外技術情報収集 ・公的機関等による要請により、委員会あるいはワーキンググループ構成が必要な場合 現在、(財)廃棄物研究財団の要請により「最終処分場におけるしゃ水シートの安定性に関する調査」に協力委員を派遣している。				

5 今後のスケジュール

今年度は活動初年度でもあり、分科会活動を軌道にのせるため、それぞれのテーマについて、問題点、課題の把握を行い、順次具体的研究に移行する予定である。年度末には、今年度成果を報告書としてとりまとめる予定である。

6 おわりに

本研究会には、IGSのメンバーも多数御参加していただいております。今後、新素材の適用をはじめ、最終処分場技術の発展のため、積極的な活動を御願い申し上げます。